

10月の学習会の案内

平成27年10月7日

朝夕とめっきりと涼しくなってきましたが、先生方におかれましてはお元気でご活躍のことと思います。

10月の語る会がせまってきました。いつもご案内がぎりぎりとなっていること申し訳なく思います。このところ大勢の先生方に継続的に参加していただき、毎回のグループでの話し合いがもりあがってきているのを実感しています。学校の業務も忙しい中ではあるかと思いますが、引き続きよろしくお祈りいたします。

今月の会は以下のようになっています。先生方の参加をお待ちしています。

日 時	平成27年10月17日(土) 9:30~12:00
場 所	岡山大学 教師教育開発センター東山ランチ 2階 授業研究室 TEL(086)272-0511 FAX(086)271-3455
連絡先	小出 真規(こいで まさき) TEL 090-5704-7339 m-koide@okayama-u.ac.jp (学校パソコン) m.koide.freewill@icloud.com (携帯メール) ※小出の携帯メールアドレスが変更になっています。
内 容	西日本集会へ向けての教材研究および授業構想(グループごとに内容が異なります) 実践内容の検討
<お知らせ>	
※ <u>駐車場について</u>	東山ランチの駐車場をお使ください。
※ <u>会費納入</u>	まだの方は新年度の年会費をお願いします。2000円です。

平成27年度岡山大学教育学部附属幼・小・中教育研究発表会

日 時	平成27年11月7日(土) <u>小学校・幼稚園</u> 8:50(受付開始)~16:40 20日(金) 中学校 9:30(受付開始)~16:30
場 所	岡山大学教育学部附属小学校、幼稚園、中学校
研究主題	考える力を育てることばの教育

本年度も昨年から引き続き、幼小中の3校園合同の研究発表会です。ただし、幼稚園・小学校と中学校は授業公開の日にちが異なります。ご注意ください。

研究の最終年次として、これまでの「考える力」の育ちの検証が主要なテーマとなっています。くわしくは、添付のファイルをご覧くださいと思います。こちらの会もぜひ、お運びくださればと思います。よろしくお祈りいたします。

9月の学習会の報告

今年度は、3つのグループ（学びのつながり・発達段階のつながり・学習者のつながり）に分かれて、教材研究を行っています。10月もそれぞれのグループで研究を進めました。

田中先生より

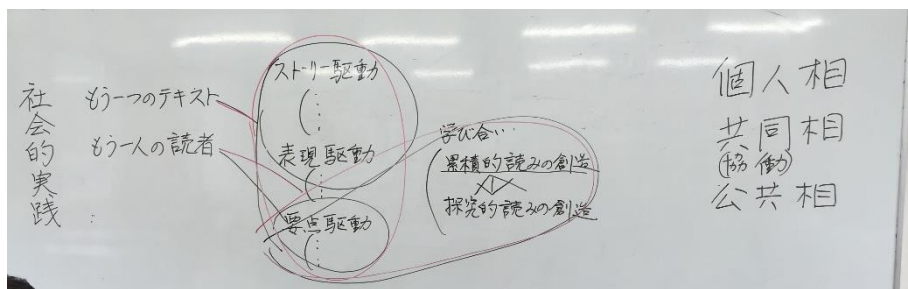
- 「読む」という社会文化的営みは、「もう一人の読者」と「もう1つのテキスト」によって媒介され、進行している。
- 他者と交流して読みを広げ、自分の読みを深めていくことが大切。

小川先生より

- 低学年でペアトークを取り入れた実践を見て
「話をするときには分かるように話す」「しっかり聞く」などの話合いの基礎がきちんとできていることが大切。話合いは、累積的→拡散型→積み上げ…というように発展していくと考える。「ぼくは～と思う。理由は…」と、理由を語らせることが探究的な読みにつながっていく。
- 話型について
子どもの中でいかに活用できるかがポイント。話型があることで、聞く側は聞く構えをもつことができる。
付け足しをすることは、拡散につながる。「同じ言葉に着目したんだけど、ぼくは～と思った」と、発表させていくことで探究的な学びにつながっていく。

田中先生より

- 学習の中に、「個人相」「共同（協働）相」「公共相」がある。個人相は一人読みの段階、共同相は自分の思考が揺さぶられて変容したり確認したりする段階、公共相は言語化し他者に分かるように伝えていく段階。学習の中で子どもがどの段階で思考しているのか考えていきたい。



グループごとに分かれて教材研究・発表

●①グループ(学習者のつながり)

- ・ 「想像力のスイッチを入れよう」(光村図書6年)についての単元構想を進める
- ・ 子どもの直観からめあて「筆者の伝えたいことを見つけよう」といった導入を構想
- ・ 累積的対話から探究的対話への切り替えを具体的な授業の中のどこに位置づけていくかについて検討
- ・ 一人読みが学習者同士の探究的対話にどのようにつながっていくのかについて検討
- ・ また、本学習材を読んだ後の3次の学習活動についても検討話題になった。新聞等を活用し表現することを通してメディアリテラシーの思考につなげていくことも可能なのではないかと

●②グループ(学びのつながり)

- ・5年説明文「想像力のスイッチを入れよう」について、倉敷・老松小の河上先生の指導案をもとに検討。
- ・第2次で読み取った4つの想像力のスイッチの入れ方(①印象言葉を取り除く, ②事実言葉と事実言葉の結び付きを考える, ③伝わっていない事実はないか考える, ④結論を急がない)を活用して, 第三次に新聞記事やチラシやCM(連続テキスト・非連続テキスト)の情報を分析する授業展開について話し合った。

・小川先生から

第三次で, 情報への付き合い方という筆者のものの見方や考え方を活用する。

自分の立場から書かれている意見についてどのように考えるか, 自分への見直しが大切になってくる。総合生活単元学習の発想で, 情報と自分たちはうまく付き合っているのだろうかという意識をもってこの教材文に出会い, 書き手の意図を読み取るという構想もできる。

学びの軌跡をまとめる(メタ認知)という第三次があってもよい。

●③グループ(発達のつながり)

各学年の説明的文章を, 「学習指導要領」や「初発の直観」「読みの過程での反応」などの項目で分析し, 整理をしていった。そうすることで, 発達段階による読みの学習の違いが見えてきた。

「何を読むか」「読みの直観をどう持たせるか」「おもしろ見つけと丸ごと読みをどのように取り入れていくか」「何にスポットを当てた授業づくりをするか」…などの視点に絞って, 今後自分の担当する学年の教材研究を行っていこうという話し合いになった。

小川先生

○三次への展開について

二次で身に付けたことばの力を活用することが求められる。「活用」とは, そのまま活用する場合と, 身に付けた見方や考え方を使って身の回りのものを見直すというような活用の場合とが考えられる。二次の終わりに, 自分の立場で受け止めて学んだことを書き, 三次では自分の生活に振り返り, 自分への見直しをはかる。それを仲間と交流することで, 自分の考えをよりはっきりさせることができる。

○はじめに直観力を大切にする(題名・問い・第1段落・結論などから)。そこでもった直観を二次で検証していけるようにしたい。

田中先生

・丸ごと読み・おもしろ見つけについて

学習者が現段階で感じていることを出発点として力を高めていくことをねらっているが, 形だけが広まり教育観が共有されていない実態がある。もう一度, 教育観の見直しをして, 授業をしていこう。

文責 小出・難波
間違い等ありましたら、お知らせください。